

ニ調査スルコトニ異論ナシデアラウ  
 但シ深い広汎ノ資料ノ蒐集ガ当面ノ任務ト思ハレルノデ、トモ調査会メンバ  
 ーノミニテハ問題ニテラヌ、広ク各機関ニ委テ、調査会ハ各機関ノ蒐集ヲ手伝  
 フト云フ心構ヘテ発足スベシ  
 ○ 戦場関係ハ如何ニスルヤ、戦史的ナモ、ハ専門家デナシ得ルダラウガ國民ノ子  
 弟ガ戦場ニ於テ如何ナル心理的変化ヲ来タセシヤ等ノ記録ハ軍人ノミノ調査ニ  
 テハ困難ナラン  
 ○ 大学新聞ニテハ戦歿学生ノ家庭ヲ調査シテ其ノ他ヲ蒐集シテモルガ支那事変  
 当初ト今次戦争ノ末期デハ随分思想ガ異ソテモル  
 ○ 軍隊教育、一般教育ノ方法論ヲ調査シテハ如何、又日本人以外ノ中國人、朝鮮  
 人等ニ対スル調査ハ如何ニスルヤ  
 ○ 資料蒐集ニ先立、テ調査体系ヲ確立シ調査範囲、調査方法、調査時期等ヲ詳細  
 ニスベキデアル

戦争調査会資料第四号ノ三

今次戦争調査ニ関シ調査、研究諸団体ト懇談

開催日時 昭和二十一年一月二十八日 午後三時

場所 上野精養軒

出席者

- |            |       |    |     |
|------------|-------|----|-----|
| 東亞研究所      | 理事    | 金森 | 徳次郎 |
| 世界經濟調査會    | 企画課長  | 伊達 | 宗雄  |
| 日本外政協會     | 調査局長  | 松下 | 正壽  |
| 三菱經濟研究所    | 常任理事  | 佐倉 | 重夫  |
| 三井本社調査部    | 兼調査局長 | 山本 | 米治  |
| 日本銀行調査局    | 調査部長  | 岡崎 | 文勲  |
| 日本國民經濟研究協會 | 調査部長  | 仲矢 | 虎夫  |
| 經濟団体聯合委員会  | 常務理事  | 松村 | 勝治郎 |
| 協調會        |       | 関  | 敬吾  |
| 日本中央文化聯盟   |       |    |     |

(昭和二一・一・三〇)

民主主義科學者協会

日本學術振興會

戰中犯罪調査委員會

上野圖書館

帝大圖書館

労働科學研究所

當庁側

青木長官

佐々木調査官

常任幹事

司書官

帝大助教授

司書官

帝大助教授

高橋庄十治

八木秀次

宮本多賀雄

岡田博

河合

松浦調査官

中村

橋中調査官

多田

○長官

一 調査會設立經過ト現状説明

懇談事項

ニ關係調査ノ現況及企画

ハ列席各機關ニ於ケル關係調査ノ現況及企画

只右各機關ノ主管個所

ハ列席各機關以外ノ調査機關ニ於ケル關係調査ノ一般狀況

ニ關係資料ノ保存狀況及利用

○河合氏(帝大図書館司書官)

調査會ノ調査項目ノ具體的內容ニ付伺ヒ度

○長官

凡有部門ニ亘ル各調査官ハ夫々テーマヲ有スルモ間口狭マク全体トシテハ齒

抜ノ部分アリ此ノ点ハ本托調査ニ依ル

○中矢氏(經濟団体聯合委員會調査部長)

委員會ノ活動

經濟聯盟

調査ス

重産協

ヲ明ラカニシ得ベシ

○山本氏(日本銀行調査局長)

滿洲事変以降ノ金融史ヲ本年一杯ニテ完成ノ予定ナルニ付調査會ニ協カスベシ

○伊達氏（世界經濟調査会企画課長）

戦争中主要交戦國タル米英獨ノ經濟戦力ヲ調査シタルニ依リ担当ニ依ツテハ調査会ニ協力シ得ベシ

○風早氏（民主主義科学者協会総務部長）

一、研究部門ハ  
社会科学（政治、經濟、社会、労働、農業、教育、哲學、各部門）自然科学ニ亘ル

一、着手セルモノ

科学技術界ニ於ケル戦争犯罪究明委員会ニ依リ論文ノ内容ニモ立入ツテ戦争ノ成行、本質ニ如何ニ影響セルヲ調査ス

一、要望事項

資料ノ入手困難ナルニ依リ官庁方面ノ門外不出ノ公文書ヲ利用セシムル方  
法ヲ講ゼラレ度シ、上野図書館ノ禁書ノ解禁ヲ願度（帝大図書館デハ既に

禁書解禁セラレタリ）

○八木氏（日本學術振興会學術部長）

人文科学部門ノ法律、政治委員ヨリ提出セル問題

一、戦時中ノ經濟統制法規ノ調査

二、戦争前ヨリノ外交、經過（軍関係資料ノ蒐集ニ困難性アリ）

三、世界戦争中ノアメリカ立法ノ調査研究

自然科学部門ハ本年一月ヨリ食糧問題等ニ付調査ス

以上ノ調査ハ調査会ニ直接設立ツモ、ナカルベシ唯敗戦ノ真相ニ対スル印象ハ

各自ノ頭腦中ニアルヲ以テ此ノ点ニ於テ協力スベシ

自分ノ敗因ト見做サレル見解ハ左記ノ如シ

一、研究ト応用ト生産トノ機構が複雑化過タルコト

二、軍官民間ノ戦力化ノ運営悪キヲタコト

○宮本氏（戦争犯罪調査委員会）

本年一月本員会ヲ組織シ并テ其ヲ依頼セラレタル個人ニ就キ資料ヲ集メツヽアリ  
資料蒐集ニ当リ各団体ノ協力ヲ求ム

○松 下 氏 (日本外政協会調査局長)

国際聯盟關係、國際司法裁判所關係資料ハ蒐集保存シタルヲ以テ此ノ点ニ付テ  
ハ調査会ニ協カスベシ

調査事項

世界第一次大戦后ノ敗戰國(独伊)ノ復員問題、外交關係特ニ

「米政策」 「米米經濟」 「米ノ勞働爭議」 「米ノ對支經濟政策」

印刷中ノモノ 「米民主主義ノ諸相」

倉下月後刊行 「日本民主主義ノ諸問題」

計畫中ノモノ 「平和思想ノ問題」

「太平洋戰爭ノ分析」 (外交技術面ヲ批判シ將來日本外交官ノ教

科書ヲラシム)

○佐 倉 氏 (三菱經濟研究所常任理事)

戰時經濟ノ發展狀況ヲ諸外國ノ夫レト比較検討シタルヲ以テ反止ツベシ  
吾國資料ノ不均整ナリシ点ガ敗因ナリト痛感ス

(計畫中ノモノ)

一 日本經濟ノ今后ノ在リ方ノ研究

ニ 既刊支那事變迄ノ産業發展(英文版)ニ今次戰爭中ノ夫レヲ結付ク

聯合軍ニ建物、職員ノ約半救ヲ授收セラレ今后ハ殘サレタ資料、職員ヲ以テ

研究ニ当ル

○ 関 氏 (日本中央文化聯盟)

未ダ調査ニ着手セズ文部省ノ外到団体トシテ農村指導、学徒ノ慰安等ニ當ツタ  
カラ此等ノ資料ニ依ツテ協力シ得

○ 松 村 氏 (協同会常務理事)

温存資料ノ勞働、農村問題(一冊毛破損セズ但未整理)  
戰時下ノ勞働事情ヲ勞働年鑑ニ記述ス

計重「産報」運動ノ究明ニ着手ス

○岡崎氏（日本国民経済研究協会常務理事）

幹部が支那事変以降ノ物動担当有ナルヲ以テ資料ヲ保存シテ過去ノ統制経済ヲ検討ス

調査会ニハ全幅的ニ協力ス

○岡田氏（上野図書館司書官）

内務省ノ納本ノ全部（國カヲ示ス数字ハ山形縣下ニ疎開中ニシテ二月中ニ復帰）大正十二年以降ノ學位論文ノ全部保存所蔵シタルニ付キ資料ノ点ニ於テ調査会ニ協力スベシ

○河合氏（帝大図書館司書官）

海軍ヨリ終戦后引継イダ図書館（聯合軍與味ヲ有ス）ヲモ所蔵ス、調査会ノ利用ニ付シテハ協力スベシ  
（註）上野図書館、帝大図書館ノ所蔵書ニ付シ聯合軍ハ借用証ヲ差入レ供覽中

ノモノアリ

○金森氏（東亞研究所理事）

第一次欧州大戦ニ於ケル乙ノ敗戦詞書ヲ所蔵ス

十二万冊ニ及ブ資料ヲ山梨縣等ニ疎開所蔵ス

ソ、英、米各國ノ主要事件ヲ日記本ニ羅列セル資料アリ

今次ノ戦争ノ事案ノ経過モ印刷シマリ

三五〇人ノ職員中七一八〇人ハ諸地域ニ派遣シマリタルニ依リ帰還后ノ此等ノ

智識ハ利用スルニ値ス

尚復項解散セル調査研究動員本部ノ調査資料ハ左記ノ如シ

一 戦時中ノ食糧問題

二 戦時中ノ日本ノ綜合生産力ノ実態調査（未完成）

三 インフレ問題（終戦前完成、終戦后ノ尚問題ハ目下調査中）

四 貨銀問題

五第一次欧州大戦后ニ於テ各國ニ於テ発生セル諸問題

三、調査会ニ対スル希望並ニ意見

○八木氏

敗因ハ明治維新ニ由承スルモノト断定ス

又戦争遂行ノ不円滑ハ日本ノ教育ノ失敗ニ依ルベシ、従ツテ教育ノ在リ方ヲ

変更スルヤウ政府ニ進言スベシ

敗因探究ハ資料ニノミ依存セズ見識ヲ以テスル判断ニ依リ敗因ヲ衝クコトアルベシ

ルベシ

○高橋氏 (民主主義科学者協会常任幹事)

コンミテルンガ十年前既ニオチ二次世界大戦ヲ予断シ滿州事変ヲ以テ第二次世

界戦争ノ序幕ナリト稱セリ

戦争ノ発生、敗因ノ調査研究ハ過去ノ夫レノ羅列、テナク将来ヲ予断スルコト

ガ肝要ナリ

○河合氏

米國ノ指摘シタ戦争犯罪人以外ノ者ヲ日本自体が罰スルコトガ日本ノ将来ノ

為役立ツニハ非ズヤ

○風早氏

五十年ニ亘ル調査ハ永過ギルカラ政治経済的ニ危期ニ類シテ居ル現状ニ鑑ミ

適當ナ時期毎ニ過去ノ定体ヲ明ラカニスルコト肝要ナルベシ此ノ為ニハ調査

ノ適正ヲ期スル為ニ発表前資料ニ付各有力団体参加ノ上検討スルヲ可トス

○松村氏

中間報告ニ付専門家ノ検討会ヲ願度

○長官

専門委員、事務局參與ヲ置ク予定ナリ

○金森氏

虚偽ノ資料が天下ニ横行ス例ヘバ中野正剛ノ死ノ真相ノ如キ事実ハ發表セラ  
レタルモノト異ルベシ、近衛公ノ手記、迫水氏ノ手記等モ一部自己弁護ニ、  
又ハ書カレザル部分等ヲ隠蔽ス、之等ノ真相ハ時ノ経過ト共ニ失ハルル虞ア  
リ即入的資料ハ散逸ス

○松下氏

敗因ノ真相ハA級ノ戦争犯罪人ノ裁判ニ依リ或程度明白トナルベシ

戦争調査資料第五號

(昭和二一・二・七)

物動計畫運営ヨリ觀タル大東亞戦争推移

(内閣調査局調査官 田邊俊雄記)

戦争調査會事務局

5